

研究分野	水産増殖	部名	資源開発部
研究課題名	さけます資源増大対策調査事業（サケ）		
予算区分	水産業振興費		
試験研究実施年度・研究期間	H6～H23		
担当	高橋 進吾		
協力・分担関係	水産振興課		

〈目的〉

サケ資源の増大を図るため、親魚の来遊構造や特性を明らかにするとともに、来遊予測のための基礎資料を得る。

〈試験研究方法〉

回帰した親魚数と既存資料を用い来遊予測手法の開発と漁獲量変動要因の解析を行った。

〈結果の概要・要約〉

平成 20 年漁期の各海域での沿岸漁獲尾数（1 月末日現在の暫定値）は、太平洋 97.2 万尾（前年比 93%）、津軽海峡 15.6 万尾（前年比 67%）、陸奥湾 0.3 万尾（前年比 92%）、日本海 6.8 万尾（前年比 68%）、県全体では 120 万尾（前年比 87%）であった（図 1）。

気象庁等が公表している海況情報では、親潮（100m 深水温 5℃以下）沿岸分枝の勢力は弱く、11 月までは北退傾向、12 月に入り平年並み～南下傾向で推移していた。この親潮の動向と太平洋海域での漁獲動向に対応が見られ、例年の盛漁期である 11 月より遅く、12 月上旬にも来遊のピークがみられたのが特徴的であった（図 2）。

〈主要成果の具体的なデータ〉

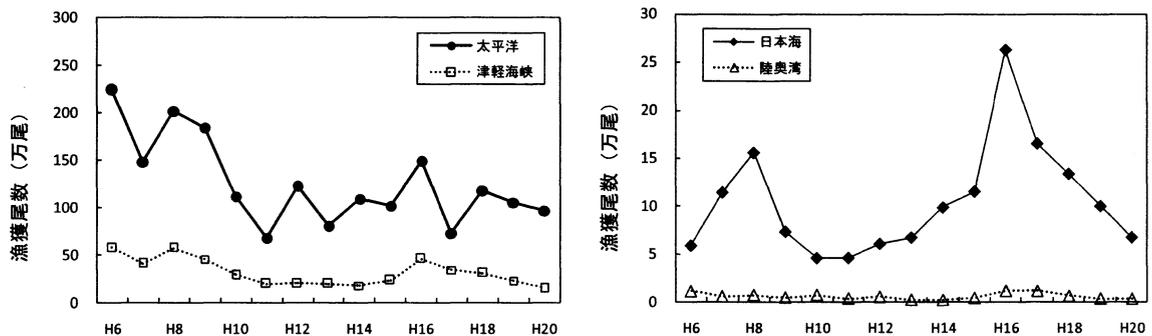


図 1 サケ沿岸漁獲尾数の海域別年変動

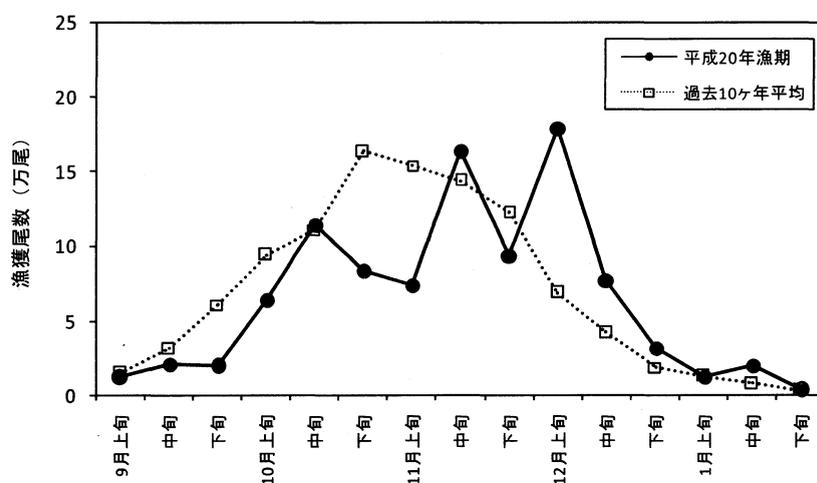


図2 太平洋海域における旬別サケ沿岸漁獲尾数の推移

〈今後の問題点〉

来遊予測手法の確立と回帰資源の評価

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同様

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・ 学習会等で来遊予測を発表
- ・ 地区さけます協議会で漁獲動向等の報告に活用